

令和5年7月26日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和5年6月分

～令和5年6月 データから見た業界の動き～

令和5年7月26日 発表

**製造業・非製造業共に売上減退を懸念、景況感が低下
物価高・人材不足・後継者難 事業継続の対策要！**



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215 FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

～令和5年6月 データから見た業界の動き～

令和5年7月26日 発表

製造業・非製造業共に売上減退を懸念、景況感が低下 物価高・人材不足・後継者難 事業継続の対策要！

■ 概 況

6月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 +4ポイント（前年同月比6ポイント↓）

収益状況 ▲14ポイント（前年同月比2ポイント↑）

景況感 ▲10ポイント（前年同月比14ポイント↓）となり、

収益状況のD.I値は前年同月をわずかに上回ったが、売上高・景況感は前年より低下した。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲15ポイント（前年同月比5ポイント↓）

収益状況 ▲35ポイント（前年同月比5ポイント↑）

景況感 ▲35ポイント（前年同月比20ポイント↓）となった。

景況感D.I値が大きく低下（前年同月と比べ▲20ポイント）した。骨材・石工品等製造業では、「工事の件数が少なく製品の需要が減少し、売上げ・収益状況ともに▲10%となった」や、電気機械器具製造業では、医療機器・光学機器に関連する発注はほぼゼロに近く、「夏頃には解消されると言われていた半導体の生産回復は予測よりも長引いており、年内に回復する見込みはほぼ無い」と、仕事量の確保に目処が立たない事業者の声が多く聞かれた。

また、織物業では「原材料価格の転嫁が進まず、新しいデザインを強気に打ち出すこともできない」と、原材料の価格上昇分の転嫁に苦慮している。製造業全体で先行きに対する不安感が強くなっている。

非製造業では…

売上高 +17ポイント（前年同月比6ポイント↓）

収益状況 ±0ポイント（前年同月比±0ポイント）

景況感 +7ポイント（前年同月比10ポイント↓）となり、

売上高・景況感D.I値が前年同月を下回った。運輸業では、飲料や青果物輸送の季節的な需要や観光需要の高まりから荷動きの活発化を予測する一方、宿泊業では全国旅行支援策の終了で旅行需要の低迷を懸念しており、青果や食肉も原材料高で収益は好転していない。またジュエリー製品卸売業では、物価高騰が続く中、消費者の購買意欲のさらなる減少を懸念している。

警備業では、「夏祭りなどのイベントが増加により警備員の需要が増加するため、このまま人手不足の状況が続くと、警備依頼を断らざるを得なくなる」と人手不足が売上増加の足かせとなっている。

中央会では6月の調査に合わせて月次景況調査組合又は企業の事業継続力強化計画への取り組み状況や策定ニーズを聞いたところ、32社（有効回答数）より回答を得た。事業継続力強化計画について「知っている」との回答は47%、「知らない」との回答は、53%となった。また、企業又は組合、組合員で同計画に「取り組む」「必要性を感じる」との回答は44%、策定の「ニーズがある」との回答は22%となった。

物価高騰に起因する売上の減少・収益の悪化、人手の不足など中小企業者の経営は厳しさを増し、経営者の高齢化・後継者の不在なども含め中小企業者が抱える課題は山積みである。その中で、事業継続力強化計画の策定は自社の経営資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」毎に弱みやリスクを抽出、対策を検討する過程で、経営課題の発見や改善につながる。また、金融機関の事業性評価にも活用されており取り組む効果は高い。今年度、本県では計画策定に対する新たな補助制度もつくりだされている。経済環境の変化に柔軟に対応し、事業を続けていくための中長期計画づくりとして是非とも多くの中小企業者に興味を持っていただきたい。中央会では専門家派遣等を活用して策定にかかわる支援を強化していく。お気軽にご相談ください。

■ 調査員からの国等への要望・コメント **ピックアップ!**

組合組織に入っていない、アウトサイダー（一人親方等）の業者が、安価で製造を受注しているが、製品に対する責任感のなさに憤りを感じている。5年後・10年後に問題が発生する場合があります、その際は組合関係者がフォローすることになる。発注者には将来的なことも考えた業者の選定を求める。（電気機械器具製造業）

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	水産物加工業▶コロナ5類移行により、宿泊施設・ブライダル関連の売上げが堅調に推移しており、前年同月と比べ売上げ129%となった。
食料品 (洋菓子製造業)	菓子製造業▶自社の小売部門の店舗数拡大効果により、前年同月と比べ売上げ113%となった。
食料品 (パン・菓子製造業)	原材料、包材、電力価格の上昇により収益の確保が困難な状況が続いていることから、7月から製品の販売価格を値上げする。
食料品 (酒類製造業)	組合員は一生懸命頑張っているが、どうしても売上げがのびない。やはり、ワインの場合、景気浮揚しない事には進展力が低く、ワインフェア等実施して、知名度を高めて、元気を出す方途を見い出していく。
繊維・同製品 (織物)	コロナ5類以降により受注量は少しずつ回復しているが、原糸の入荷不足と燃糸工場の減少による経糸不足が深刻であり、OEMは製品価格の値上げにより受注量が減少した。原材料価格の転嫁が進まず、新しいデザインを強気に打ち出すこともできない状況である。
窯業・土石 (砂利)	工事の件数が少なく製品の需要が減少しているため、前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲10%となった。
窯業・土石 (砂利)	資材の価格高騰分の製品価格への転嫁が進んでおらず、収益の確保が困難な状況が続いている。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	原材料価格が高止まりしていることに加え、電力価格の上昇が追い打ちとなり前年同月と比べ売上げ▲15%、収益状況▲14%となった。受注量も月を追うごとに減少し続けており、年内の先行きは暗い。
一般機器 (生産用機械器具製造業)	官公庁は、年度末需要が終了したので、一服感がある。民間需要は、改修工事が新規工事より活発で、特に海外工場から国内生産に戻り、生産設備の省エネ・高機能化が求められている。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲40%となった。夏頃には解消されると言われていた半導体の在庫調整は予測よりも長引いており、年内に回復する見込みはほぼ無いと考えている。医療機器、光学機器の受注もほぼゼロに近く、仕事量の確保に頭を抱えている。

● 非製造業

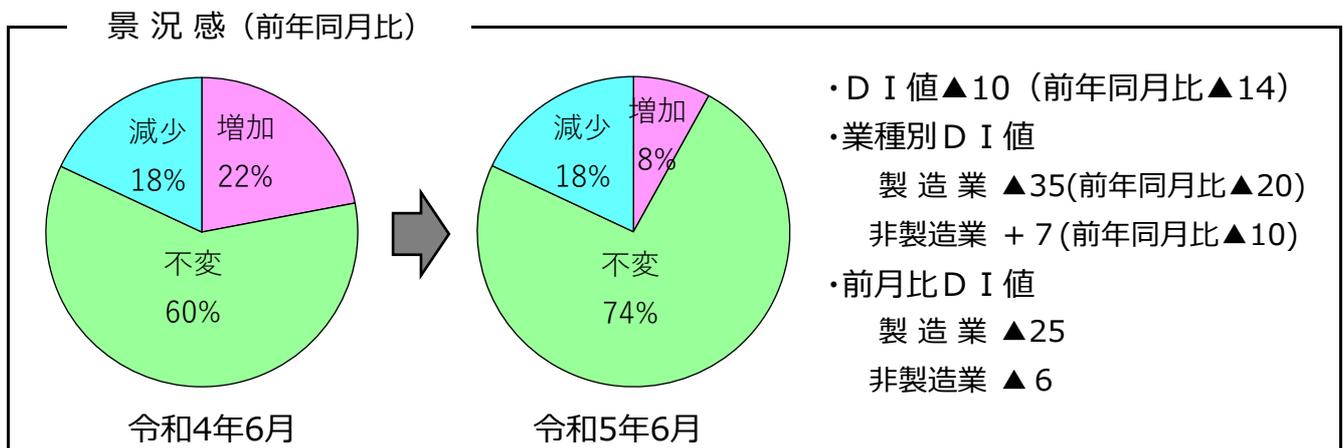
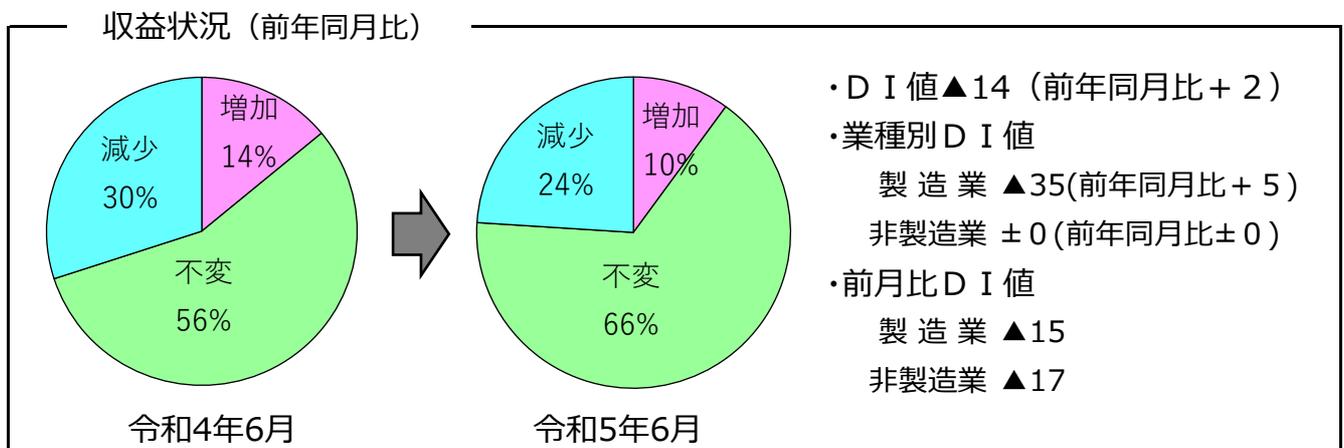
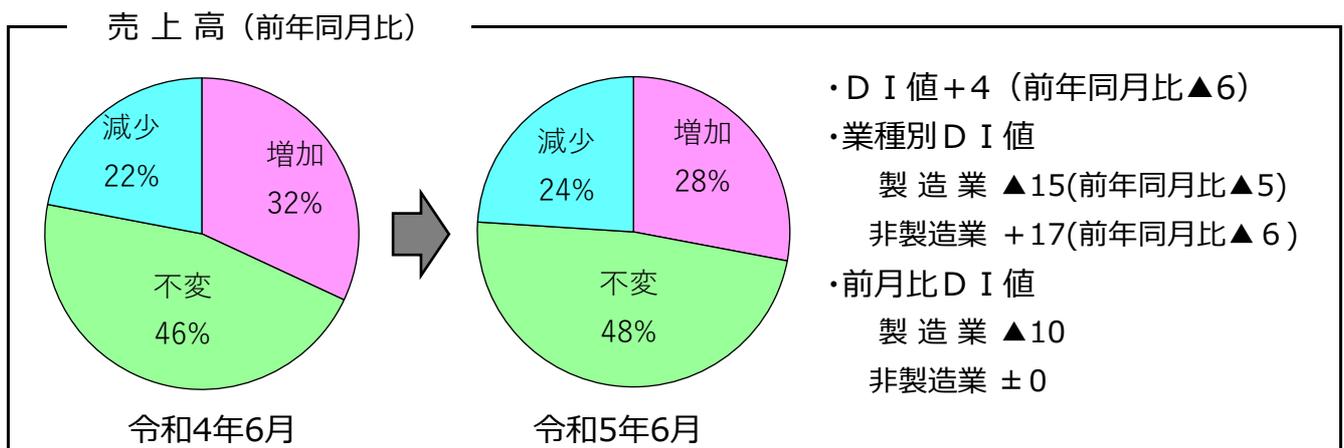
卸売 (水産物)	仕入価格の上昇により商品の販売価格を値上げしたことで、前年同月に比べ売上げは2%増加したが、収益状況は好転していない。 飲食店の客足は回復傾向であるが、コロナ禍以前の状況にはほど遠いと感じている。
卸売 (ジュエリー)	円安による原材料価格の高止まりが続いており、売上げは回復傾向であるが、収益の確保が困難な状況が続いている。特に「金」の価格は6月には1グラム＝9,876円と過去最高となった。 また、3月、5月に開催された展示会は国内外ともに大きく賑わったが、6月に香港で開催された展示会の賑わいは、予想をはるかに下回った。 物価高騰が続く中、消費者の購買意欲のさらなる減少を懸念している。
小売 (青果)	サクランボの時期が終了したため、桃・スモモの販売に力を入れ始めた。入荷量・売れ行きともに堅調に推移しており、前年同月と比べ売上げは9%増加、収益状況は3%好転した。
商店街	コロナ5類移行により大月駅の利用客が増加したことで、組合が管理する駐車場の売上げは増加したが、商店街の客足は回復せず、組合員は売上げの確保が困難な状況が続いている。

宿 泊 業	コロナ5類移行と全国旅行支援のかけこみ利用で宿泊客が増加し、各施設の稼働率は上昇したが、仕入れ価格や電力・水道価格の高騰により収益状況は好転していない。
宿 泊 業	全国旅行支援のおかげで平日の稼働が上がり、売上げを確保することができていたが、6月で終了した。7月から「夏の行楽シーズン」となり繁忙期を迎えるが、全国旅行支援策が終了したことによる旅行需要の低迷を業界全体で懸念している。インバウンド需要は堅調に推移しているが、仕入れ価格の高騰や人手不足が業界に売上げ・収益状況の回復の足かせになっている。
産業廃棄物処理	前年同月と比べ売上げ▲15%、収益状況▲10%となった。深刻な人手不足が続く中、設備の修繕費が増加しており、今後は電力価格のさらなる上昇を懸念している。
一般廃棄物処理	人材の確保に苦慮している。
警 備 業	公共工事の発注が平準化しており、例年は閑散期であった4月から6月の仕事量が上昇している。特に5月、6月は土木工事の発注が多く、安定した売り上げを確保することができた。課題は人手不足である。ハローワークや求人広告による募集により一定数の応募はあるが、警備員としての資質に欠けており入社まで至らないケースが多い。今後、夏祭りなどのイベント増加により警備員の需要が増加するため、このまま人手不足の状況が続くと、警備依頼を断らざるを得なくなる状況になる恐れがある。
自動車整備業	前年同月と比べ売上げ▲10%となった。発注から納車の間に新車価格が変動するため、先行きの予測ができない。
建 設 業 (総 合)	6月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は▲2.9%、請負金額は▲12.6%となった。6月末累計の件数は▲4%、請負金額は▲12%となった。
建 設 業 (型 枠)	請負単価が上がらず、収益状況の悪化によりベースアップができないため、人材を募集しても応募がない。仕事量は徐々に増加しているが、人手不足により受注を断る事態が発生している。
建 設 業 (鉄 構)	中国の鉄鋼需要が生産量を下回り、在庫が増加。その為に国内のメーカーが安値の輸入材に引きずられ、鉄スクラップの価格の値下げとともに鉄骨の値下げが見られるが、他メーカーや流通関係は様子見といった状況である。 2025年大阪・関西万博のパビリオン「日本館」の入札が資材価格や人件費の高騰が原因で不調となるなど、ゼネコンは資材高騰分を見込まないと受けないとする姿勢は価格転嫁しやすい環境とも言えるが計画の中止や延期にもつながり、結果的に工程や仕事量の調整、人材確保にしわ寄せがくるのは下請け業者である。
設備工事 (管設備)	資材の販売量は伸び悩んでいるが、工事量が増加傾向にある。前年同月と比べ売上げは▲14%となったが、収益状況は35%好転した。
運 輸 (タクシー)	4月以降、日中のタクシー利用が増加している。また、夜間の飲食店においては客足が増え続けている様子だが、タクシーの稼働台数はこれに追いついていないように感じる。
運 輸 (トラック)	依然、燃料価格が高止まりとなっており、政府の燃料補助も段階的に絞られてくることから、益々経営状況は悪化しそうだ。 但し、今後飲料や青果物輸送に季節的需要が高まることが予想される他、観光需要の高まりから荷動きが活発になることも予想されるため、その動向に注視していきたい。

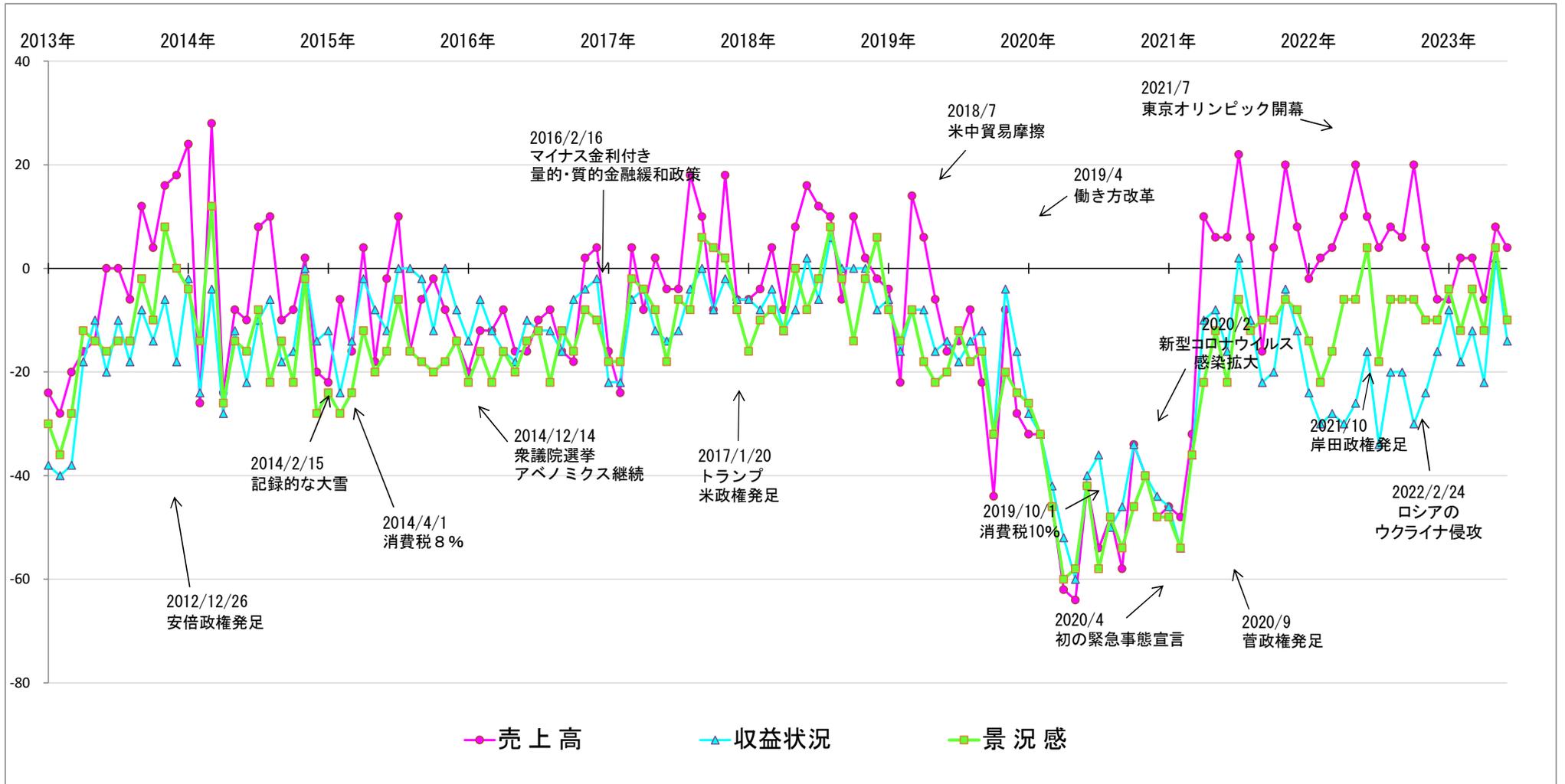
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2022年6月	2023年5月	2023年6月	2022年6月	2023年5月	2023年6月	2022年6月	2023年5月	2023年6月
売上高	▲ 10	▲ 5	▲ 15	23	17	17	10	8	4
収益状況	▲ 40	▲ 20	▲ 35	0	17	0	▲ 16	2	▲ 14
景況感	▲ 15	▲ 10	▲ 35	17	13	7	4	4	▲ 10

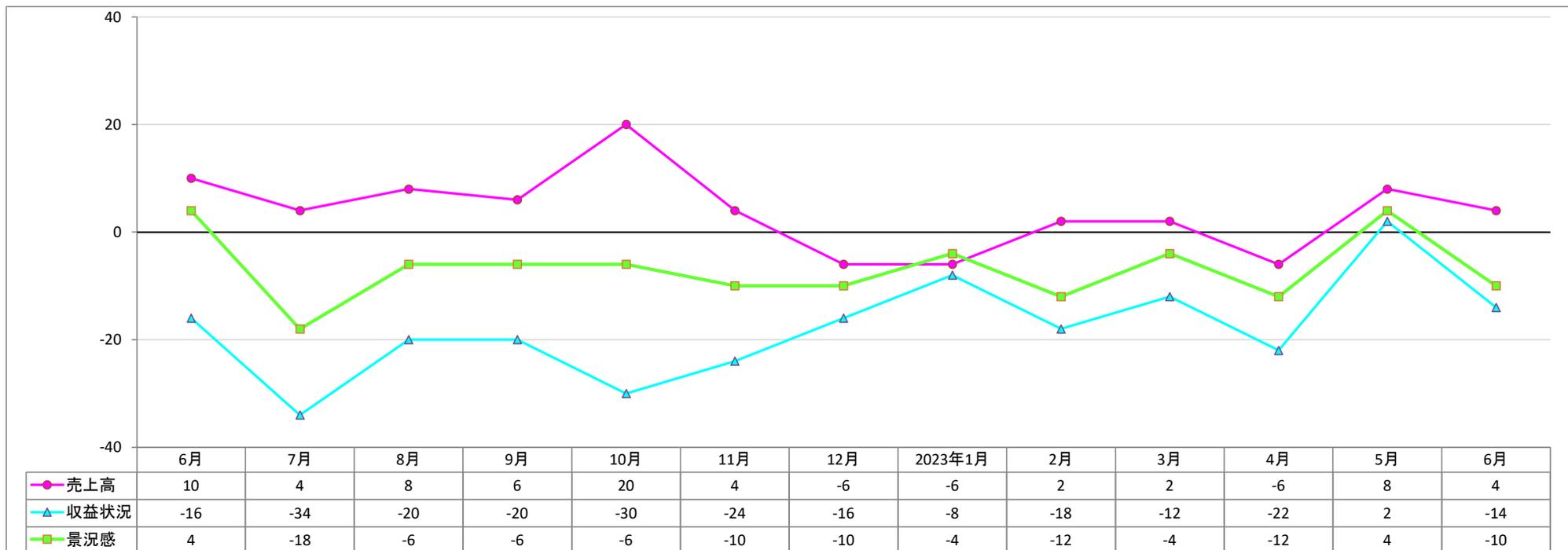
※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



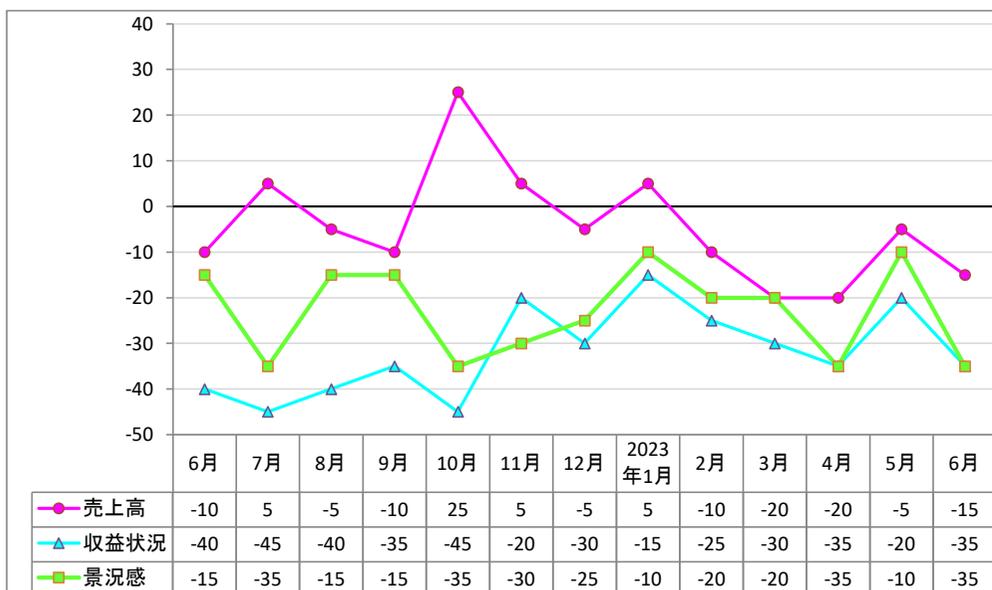
D.I値の推移①(過去10年間) 2013年1月～2023年6月



D.I値の推移②(過去1年間) 2022年6月～2023年6月



【製造業】



【非製造業】

